

令和6年度運輸安全マネジメント検証と対策

1. 令和6年度検証

本年は降雪が例年より多く、自然現象に関わる物損事故（スリップ）事故が多く発生しました。ただし重大事故や人身事故にはならず、今年度としましては物損事故3件の結果でありました。事故防止の観点からすれば安全不確認、冬季運転の甘さによるもので防ぐことはできた物損事故であります。毎月の指導を行っている中でこういった事故が発生することは基本動作の欠如、慣れによる省力運転が日常的に行われていることに尽きます。安全目標として令和6年度にバック時の死角の徹底（つもりは不確認）を掲げていたが残念ながら目標を達成できなかったのは管理指導者として申し訳なく思っております。

その反省を活かし、今後の指導に関しては自立性を育み、主体的な取り組みにするべきだと理解しているところであります。来年度はプレスト会議、ワークショップなどグループに分けながら会議体そのものを預け、自主的に運営することに取り組んでいきたいと思いません。

運行管理の総括としてはDXによる自動点呼、IP無線の導入によりさらなる運行管理の強化を図ることができました。自動点呼では運行管理者の負担軽減につながり、その様々な情報提供を乗務員に伝達することができ、より乗務員の安全の一助になったと思えます。またIP無線では運行前後点検を無線で行い、故障時、緊急時における対応をスムーズに行えることは乗務員の負担軽減に繋がること結果になったと思えます。乗務員、運行管理が一体となり互恵関係を構築することがエンドユーザーの安全、安心を創り出すことはいうまでもなく、来年度もワンチームとしてさらなる挑戦と無限の安全を創出していきたく考えます。

<令和6年度物損事故・車両故障内容>

- ① 緩いカーブでの物損事故（スリップ）1件
- ② バックでの物損事故2件
- ③ ダイナモ故障（奥羽本線代行バス）1件

<主な経費実績（令和6年度）>

アルコール検知器（携帯用）

適性診断 30,000円

月一回の安全会議 26,400円

塩害車両修理 5,052,000円

新車、中古購入（大型1台小型マイクロ1台） 59,180,000円

健康診断（SAS含む）189,833円

運行管理者・整備管理者講習 30,000円

脳ドッグ 138,600 円
IP 無線 2,024,000 円
自動点呼 585,000 円

2.総論

- ① 連続運転 1 件ありました。※本人の確認不足
- ② 物損事故は 3 件であり目標は不達（目標 1 件）
- ③ 車両故障が 1 件あり（ダイナモ故障）
- ④ IP 無線や自動点呼の DX を活用し、運行管理の安定、軽減、乗務員の負担軽減に繋がった。
- ⑤ 積極的に山形県バス協会の研修に参加するようし、多くの社員が満遍なく参加できた。
- ⑥ 運行管理補助を 1 名増加し、運行管理体制の安定に繋がった。
- ⑦ 物損事故の内容がバック事故、スリップ事故であり、防止できる事象であった。
- ⑧ バック事故は安全目標の一つであったが残念ながら 2 件もあり、管理指導が足りなかった。

3.改善策

- ① 今年度目標は重大 0、物損 3 件⇒来年度目標は重大 0、物損 1 件の目標
- ② 事故ゼロは我々の最大目標であるため、1 件でも減らすよう安全会議をより多く開催し運行管理、手配、乗務員一同、ワンチームになり遂行していく。
- ③ 来年度目標を「凡事徹底」、基本動作の徹底にし、会議体を自立性重視したものに変わっていく。
- ④ 冬季における事故がすべてあるため冬期運転 5 原則の徹底、再教育

4 目標/数値（令和 7 年度）

(1) 重大人身事故（第一当事者）	0 件（6 年度 0 件）
(2) (1) 以外の人身事故	0 件（6 年度 0 件）
(3) 有責物損事故対前年	1 件（6 年度 3 件）
(4) クレーム件数	0 件（6 年度 0 件）
(5) 車両故障	1 件（6 年度 1 件）

5. 予算案

- (1) 車両管理システム（バス紀行） 400,000 円
- (2) 外部講師、月一回の安全会議 30,000 円
- (3) 塩害による下回りの補強、シャシ塗装 5,000,000 円
- (4) 適性診断 30,000 円
- (5) 運行管理者・整備管理者講習 30,000 円
- (6) 健康診断（2回） 200,000 円
- (7) SAS/脳ドック/視野検査/心疾患の検査 300,000 円
- (8) 自動点呼・IP無線ランニングコスト 300,000 円
- (9) 衝突装置（シールドプラス） 2,800,000 円
- (10) 中古バス購入（大型1台） 32,500,000 円

令和7年4月1日
安全統括者 池田 新